
152話 すずめ

吉川明人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

152話 すすめ

【Nコード】

N1277Q

【作者名】

吉川明人

【あらすじ】

シヨートシヨートです。ふと気がつくと、狭い部屋の中にたくさんの仲間といっしょに閉じ込められていた。

ハッと目を覚ますと、ワシは狭い部屋の中にいた。

「ようやく目を覚ましおったか」

そばにいた者の声に頭をあげて、周りを見渡すとワシだけでなく大勢の仲間たちがこの部屋に閉じ込められているようだ。

「ここには扉も窓もなく、部屋というより箱の中といったほうが正しい。」

「ここがどこか。どうしてここにおるのが尋ねても無駄じゃ。」

みんな気がついたらここにおったのだ」

「何が起きたのだろうか?」

「それも分からぬ。又シは気を失う前のことを覚えておるか?」

「いいや。しかし、何やら茶色いモノの大群に襲われたような気がする」

「うむ。何人かが同じ証言をしておる。」

かん高い声を聞いたという者もおるが、いったい何だったのであらうな?」

話し合っていると、突然地面が揺れた。

「地震じゃ！」

「大きいぞ！」

ワシらは床に這いつくばって治まるのを待ったが、揺れはいつこ
うにやみそうにない。

「この世の終わりじゃ」

「ナンマンドブ、ナンマンドブ」

絶望して経を唱える者もいたが、その時ワシはふと気づいた。

「よく聞け、皆の衆！」

もしかするとワシらは閉じ込められたのではなく、かくまわれて
いるのではないか？」

「なるほど、それは一理ある。」

「こんな出口のない部屋なればこそ安全というわけじゃな」

「うむ。ここは腹を据えて成り行きを見守ってはどうかだろうか？」

ワシの提案に仲間たちは落ち着きを取り戻し、激しい揺れの中、
ジッとこらえていた。

しばらくすると揺れは止まり、安堵しかけた直後、ドスン！と
激しい音とともに、叩き付けられたような衝撃が起きて、何人かが
気を失った。

さらに、ガタガタ部屋を揺する音が聞こえ、天井がゆっくり上がっていき、何者かが中をのぞきこむ。

「ひええっ！」

のぞいた者がすつ頓狂な叫び声をあげたと同時に、部屋全体がガタンと横倒しになった。

おかげで外へ通じる出口ができたため、ワシらは部屋から逃げ出すことができたのだ。

振り返ると、強欲そうな婆さんが大きなたづらの前で、腰を抜かしながら「ひええっ！ ムカデにへび！ クモにガマガエル！ 大判小判はどこにあるんじゃ！」と泣き叫んでいるのが見えた。

(後書き)

すずめのお宿のお婆さんが持ち帰った大きなつづらの中身の話です。
ムカデに刺されて死んでしまうものより、改心して欲張らなくなっ
たお婆さんの話のほうが好きなので、

このあとお婆さんはお爺さんと一緒に幸せに暮らします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1277q/>

152話 すずめ

2011年1月16日08時11分発行